

日々の生活の中で、全力を尽くして何かに取り組むことがどれほどあるでしょう。日頃はそういう機会がなくても、人生の中で一度や二度は、命がけで何かに取り組んだ体験や経験があるはずですよ。

学生時代から十三年間、家の中に引きこもっていたEさんは、心の内に「今の自分を変えたい」という思いを持っていました。しかし、思いはあっても、なかなか行動に移すことができません。

ある時、叔母から、若者を対象にした弁論大会があることを聞きました。「あなた、その大会に出てみたら？」と誘われたEさん。その時は「自分にはとても無理だよ」とその誘いを断りました。

しかし、叔母は諦めません。何度断られても、顔を見るたびに声をかけ続けました。Eさんは、とうとう叔母の熱意に根負けし、弁論大会に出ることにしました。

弁論テーマは、「未来を創る」です。Eさんは原稿用紙に、「今の自分を変えたい」という思いを書き綴りました。そして、毎日練習を重ねて、本番に臨みました。

練習と違い、本番では大勢の観客がいます。自分の番が近づくと、「出るのをやめようかな」という思いが込み上げてきます。しかし、支えてくれた叔母や両親のことを思うと、「帰ります」とは言えませんでした。

ついに自分の番がやってきました。Eさんの名前が呼ばれ、舞台上立ちます。二百名近い観客の視線が自分に

1月のテーマ | 全力を尽くす

本気で向き合えば 人生は好転する



向けられ、一瞬、頭が真っ白になりました。

会場の雰囲気は圧倒され、第一声がなかなか出ません。「もうダメだ」と思った時、祈るように応援する母の姿が目に入りました。「母が応援してくれている」と思うと、自然と心が落ち着き、すつと言葉が出てきたのです。

それからは、覚えた原稿を懸命に発表しました。緊張のあまり早口になったり、途中で詰まったりもしましたが、何とか最後まで発表することができました。

出場者全員の発表が終わり、結果発表が始まりました。自分には関係ないだろうと思いつつ発表を聞いていると、最優秀賞でEさんの名前が呼ばれました。

たくさんの拍手をもらいながら、慌てて立ち上がり、頭を下げたEさん。客席で号泣する両親の姿が目に映りました。「こんな僕でも親を喜ばせることができるんだ」と気づいたEさんは、その後、就職活動に取り組み、社会復帰を果たしたのです。

必死に練習し、本番に臨んだEさんだけでなく、何度断られても足を運び、弁論大会に誘った叔母、長年息子を支え、応援し続けた両親、それぞれの立場で全力を尽くした結果でした。

*

人は、いざという局面に立たされた時、自分の中に眠っていた能力を発揮することがあります。困難から逃げずに、全力で立ち向かうところに、人を動かし、環境を変え、人生を好転させる一歩が踏み出されるのです。